

北海道訪問リハビリテーション連絡会 議事録

日時：平成 27 年 7 月 29 日（水）19 時～

場所：北 31 条デイサービスセンター

参加者：岡田 播磨 赤羽根 内藤 濱本 吉岡 小野 友田 千葉（書記）

欠席：菊地 大澤

議題

1. ワーキンググループからの報告

- ①実務者研修グループ
- ②独自研修グループ
- ③広報グループ

2. その他

内容

①実務者研修グループ

- ・実務者研修のテーマは「地域につながるリハビリテーションマネジメント」
- ・講師は PT 一色氏、シーズネット奥田氏。活動と参加に向けた事例は播磨を中心に集めている。
- ・6月に三士会の HP に案内を掲載済み。
- ・会場は昨年と同じく西野学園。予算の都合で講堂のみ借りている。定員は 100 名を予定している。
- ・現時点での申し込みは 32 名。ST の申し込みはまだない。札幌以外の申し込みが半数以上。
- ・申し込みがまだ少ない。周知されていないか。PT は広報紙に掲載してもらう。
 - 研修会のイメージがつくように、詳しい内容の案内を各連絡会にもう一度流す。
 - 今年もオータムフェストと重なり、ホテルの混雑が予想されるため、案内は早めに流す。
- ・例年、要望としてタイムスケジュールを出して欲しいと言われる。
 - 具体的なタイムスケジュールを道リハ連 HP、三士会 HP、ML に流す。
- ・資料を PDF で HP に載せることはできないか？
 - パスワードをかけ期間限定でダウンロードするか？参加者限定。講師に確認する。
- ・参加費は当日払い。名簿は会員か非会員かを判断するため、POS 士会と照らし合わせる。

②独自研修グループ

- ・今年度の独自研修はまだ決まっていない。
- ・今年は地域系の研修会が多い。独自研修を行うべきか否か。
- ・独自研修の位置付けをどうするか？実務者研修の補完か？研修会を開催すれば活動資金も集まる。
 - 活動資金については助成金も視野に入れられないか？
- ・訪問リハの実務者には何が必要か？必要なものが具体的に定まっていない。実務者研修は訪問リハの入り口。独自研修はより専門性を高める研修にしてはどうか？
 - 全道の各連絡会の活動をまとめて集約したものを作れないか？
 - 研修会で不足していることや全道レベルで開催してほしい研修はないか、アンケート形式で情報収集する。
 - 活動を集約出来たら、2 年後開催の全国学会に北海道独自のものをアピール出来る。
 - 実務者研修会の 2 次会で、各連絡会の方々に情報収集する。
- ・岡田会長とパナソニックさんとのセラピスト向けセミナーを道リハ連共催にできないか？
 - パナソニックさんに確認する

③広報グループ

- ・リレー連載のスケジュールを組み、始動する。スタートは岡田会長。文字数は600字を予定。
- ・実務者研修の詳細の案内掲載、会員MLのメンバーを確認する。

④その他

<全国の動きと道内の動き>

- ・平成29年6月10～11日に訪問リハ協会の全国学術大会が札幌で行われる。
- ・大会長 内藤、実行委員長 鈴木氏、大会事務局長 齋藤氏
- ・オール北海道で開催する。札幌のリハ連と小樽の連絡会の方には実行委員を依頼予定。その他の他団体にはワークショップなど90分くらいの1コマを企画してもらえないかと考え中。企画案は、道リハ連役員がサポートする。

→実務者研修の2次会に齋藤氏・鈴木氏も参加してもらおう。

- ・参加人数1500人程度。今年の秋くらいに実行委員で集まる。
- ・各地の連絡会が輝く場にしたい

<訪問リハ調査>

- ・道内で訪問リハはどれくらい増えているのか？

→独自研修グループのアンケートに合わせて会員施設の実数もアンケート内容に入れる。

<その他>

- ・会議の時には議題を載せた紙面を用意する。

次回の道リハ連会議は実務者研修終了後に開催する。